

農經新聞

クラカグループ

加工用青ネギを強化 集出荷貯蔵施設が完成

倉敷青果荷受組合(略称「クラカ」、塚本尚作理事長、岡山県倉敷市、民営地方卸売市場)を中心としたクラカグループの農地所有適格法人クラカアグリでは、農水省の今年度補助事業「強い農業・担い手づくり総合支援交付金事業」を活用して建築中だった集出荷貯蔵施設が、同市場内に完成した。加工・業務用青ネギの安定供給を図る。

クラカアグリは2016年10月設立。栽培面積は17畝で、加工用青ネギ、キャベツ、レタス、スイートコーンなどを栽培している。新施設は鉄骨平屋建て建物面積は3

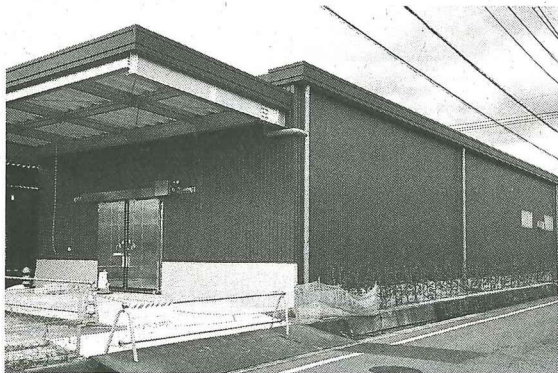
85平方メートル、うち青ネギ調製室165平方メートル(青ネギ皮むき洗浄機1台設置)、冷蔵庫220平方メートル。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、新施設は鉄骨平屋建て建物面積は3

昨年春は青ネギの輸入量が減少した。このためグループ本部で契約取引先のクラカでは、加工・業務用青ネギの安定供給を図り、中国産から国産へ転換するため、クラカアグリに青ネギの供給量増加を依頼した。

集出荷貯蔵施設を整備することで、作付面積の拡大・収穫回数増加、天候に左右されない安定供給が可能になる。10畝あたり供給可能数量をこれまでの2・1トから2・

66トに増加させ、加工・業務用青ネギの供給量を



新型コロナウイルス発生前の平均値である47・3トから、2022年には266トに増加させる計画。

また、加工業者であるクラカ・カット野菜部と基本契約を結び、全量加工用として契約取引で出

荷し、安定的な農業所得の向上をめざす。同時にクラカは実需者とクラカアグリ産の青ネギ供給の基本契約を結ぶことで、安定供給を図っていく。

青ネギ用集出荷貯蔵施設の外観(上)と冷蔵庫